

ふくしまの今を知る学習会報告



2025年12月6日(土)に、「ふくしまの今を知る学習会～福島を取り組みから食の安全・安心を学ぶ～」をオンラインで開催しました。当日は79名が参加、後日配信する動画視聴には14名のお申込みがありました。講師の「株式会社ももがある」代表、齋藤由美子さんは福島からオンラインで講演。農業の現状や未来につなぐ取り組みを学ぶだけでなく、福島の魅力をあらためて知る機会となりました。

開会あいさつ

東京都生協連 樽井美樹子専務理事

この学習会は、福島の現状と取り組みを深く知り、その魅力を広めることを目的としています。東日本大震災から14年が経過し、今なお原発事故の影響と向き合いながら、福島の食の安全・安心を伝えるために様々な取り組みにチャレンジされている福島の「今」を学び、理解を深め、福島の現状を考える機会にしたいと思います。

福島県の概要

「ふくしまの今を語る人」運営事務局の千葉さんから、福島県の3つのエリア「会津地域」「中通り」「浜通り」それぞれの文化や産業など、特色や魅力をお聴きしました。

東日本大震災による地震と津波による被害。福島第一原子力発電所事故による放射性物質による影響と福島県によるモニタリング検査や検査結果の公表など、食の安全を守るための取り組み。震災から14年が経過した今の状況から未来に向け、産業や観光についてどのように復興や発展を目指しているか。様々な取り組みを知ることができました。

齋藤由美子さんのお話

“もったいない”からこそ価値あるブランド～完熟桃で新商品開発

福島生まれで大学から仙台や東京で暮らし、音楽活動やテレビ局のディレクターなど様々な経験を積み、東日本大震災を機に福島に帰られました。復興のまちづくりに取り組みされたことから、「完熟桃に価値をつけ、ロスを無くす」取り組みが始まりました。福島県は桃の生産量全国2位、おいしい桃が50品種以上あるそうです。しかし、規格外や完熟の桃は市場に出回らず、ジュースなどの加工や廃棄される現状があり、さらに原発事故による風評被害も重なっていたことから、「なんとかしたい」「新たな道を創りたい」という想いを抱かれました。

試行錯誤の上で、瞬間冷凍する技術に出会い、桃の果実と果汁だけをパウチして冷凍した商品を開発。いつでも生の完熟桃を食べられます。パートナー農家は意欲的な若い生産者で、廃棄桃の削減や収入の増加だけでなく、魅力的な産業の創出、福島の発展にもつながっています。また、女性が働きやすい環境づくりを徹底し、無添加・手作りを大事にし、女性の力を発揮できる場となっています。

齋藤さんの輝くような笑顔に人が集まり、これからの福島の発展のために力を尽くされています。



ピーク時の桃の加工工場

参加者アンケートから(抜粋)

- ・福島で頑張っている現地の方のお話を聴く機会がないのでよい機会でした。これからも応援する交流講演会などがあるとよいと思います。
- ・齋藤さんの遍歴、縁を大切にし、チャンスをつかみ、マイナスをプラスに変える力と創造力、そして誰かのために何かをするという精神・・・たくさんの学びがありました。
- ・「ももがある」さんの取り組みがよくわかりました。今後は福島県産があつたら、もっと積極的に買ってみようと思いました。
- ・とても貴重な時間でした。これから職場でも講演の内容を伝えていければと思います。
- ・こちらの方こそ元気をいただきました。応援というにはおこがましいくらいで、ともに食べ、話し、お互いが楽しく支え合っているような関係を続けていけたらと思いました。周りにも伝えます。